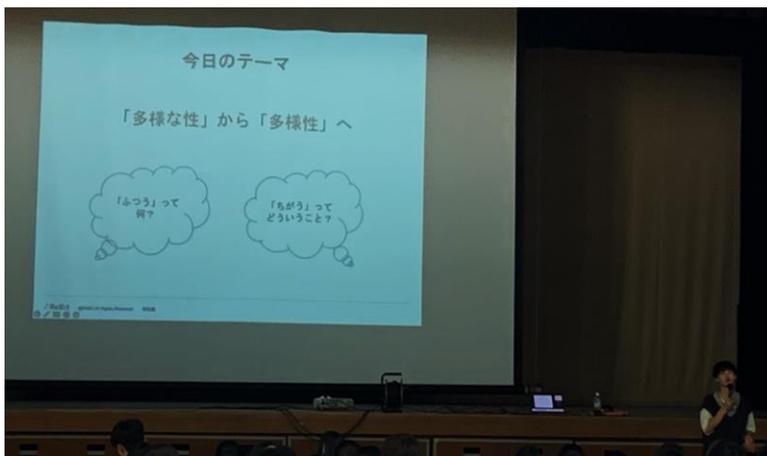


“多様化するジェンダー”について考える

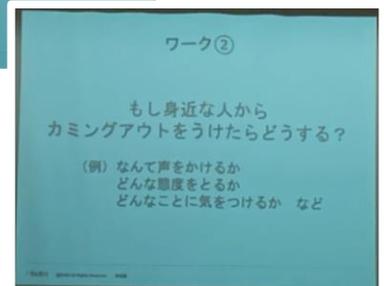
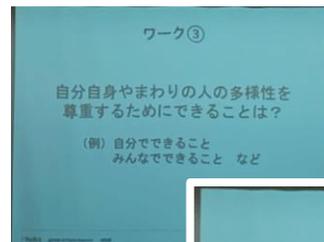
～世間の「普通」に疑問を持ち、他者との「違い」と向き合う～

多様性を尊重する時流と共に、“ジェンダー”に関する捉え方も大きく変わりつつある昨今、LGBTは13人に1人いると言われていて、身近な話題となっています。一方で、ジェンダーについて正しく学び理解を深める機会はまだまだ多くありません。

そこで、1年次の選択科目「産業社会と人間」では、ジェンダー教育の一環として、LGBTを含めた全ての人があるまま生きられる社会を目指す認定NPO法人ReBitさんに、出張授業をしていただきました。



“「多様な性」から「多様性」へ”をテーマとして、ReBitの講師の方に、LGBTを考えるきっかけとなった自身の経験から現在に至るまでをお話していただきました。



グループワークでは、提示されたお題に対して同級生同士で話し合い、“多様化するジェンダー”について自分事として捉えて、考える様子が伺えました。



講師の方もLGBTの一人。当事者目線でのお話やご意見を伺う貴重な機会となりました。



“「違い」って何ですか？”「恋人はいますか？」など、高校生ならではの率直な質問が多数ありました。